

各 位

会 社 名 **株式会社エリアクエスト**

(コード番号：8912 東証マザーズ)

代表者名 代表取締役 清原 雅人

お問合せ先

常務取締役管理部長 伊藤 真奈美

TEL：03-5794-0220

有価証券評価損の計上及び業績予想の修正に関するお知らせ

この度、当社が保有する株式につきまして、有価証券評価損を特別損失として計上することとなりましたのでお知らせいたします。

また、平成 21 年 5 月 14 日付において発表いたしました平成 21 年 6 月期通期の業績予想につきまして、下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

1. 平成 21 年 6 月期における有価証券評価損

	単体	連結
(A) 平成 21 年 6 月期第 4 四半期会計期間（平成 21 年 4 月 1 日から平成 21 年 6 月 30 日まで）の有価証券評価損の総額（＝イ－ロ）	61 百万円	61 百万円
(イ) 平成 21 年 6 月期通期（平成 20 年 7 月 1 日から平成 21 年 6 月 30 日まで）の有価証券評価損の総額	118 百万円	118 百万円
(ロ) 平成 21 年 6 月期第 3 四半期累計期間（平成 20 年 7 月 1 日から平成 21 年 3 月 31 日まで）の有価証券評価損の総額	57 百万円	57 百万円

※四半期における有価証券の評価方法は、切放し方式を採用しております。

※当社の決算期末は、6 月 30 日です。

○純資産額・経常利益額・当期純利益額に対する割合

	単体	連結
(B) 平成 20 年 6 月期末の純資産額	1,350 百万円	849 百万円
(A/B×100)	4.5%	7.1%
(イ/B×100)	8.7%	13.8%
(C) 最近 5 事業年度の経常利益の平均額	250 百万円	131 百万円
(A/C×100)	24.4%	46.5%
(イ/C×100)	47.2%	90.0%
(D) 最近 5 事業年度の当期純利益の平均額	166 百万円	91 百万円
(A/D×100)	36.7%	67.0%
(イ/D×100)	71.0%	129.6%

2. 平成 21 年 6 月期業績予想の修正（平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日）

(1) 連結

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	1,008	△88	△88	△222
今回予想 (B)	879	△182	△179	△381
増減額 (B-A)	△129	△94	△91	△159
増減率	△12.7%	—	—	—
(ご参考：前年同期実績)	1,015	△311	△307	△556

(2) 単体

平成 21 年 6 月期通期個別業績予想の修正 (平成 20 年 7 月 1 日～平成 21 年 6 月 30 日)

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回予想 (A)	291	△180	△180	△300
今回予想 (B)	289	△180	△177	△354
増減額 (B-A)	△2	—	3	△54
増減率	△0.6%	—	—	—
(ご参考：前年同期実績)	413	△161	△155	△496

1. 修正の理由

不動産業界においては、急激な景気後退に伴うさらなる経済環境悪化により、前回予想時よりも当社を取り巻く環境は厳しい状態が続いております。

不動産ソリューション事業においては、各テナントの店舗スクラップが加速し仲介案件の依頼が増加しつつも、景気後退によるテナントの新規出店意欲の減少が鮮明となり各案件の成約に至るまでのスピードが想像以上に急激に鈍化し、業績回復の減速を強める状況となりました。結果、連結売上高の予想数値を 879 百万円に修正しております。連結営業利益及び連結経常利益の減少は、上記売上高の減少によるものであります。

また、1. 「平成 21 年 6 月期有価証券評価損」記載のとおり、平成 21 年 6 月期第 4 四半期において有価証券評価損として 61 百万円を特別損失として計上する見込みであります。結果、第 3 四半期累計期間で計上済の有価証券評価損とあわせて特別損失を 118 百万円計上する見込みであり、連結当期純損失が 381 百万円となる見込みであります。

なお、単体につきましては、上記理由と同様、特別損失の発生に伴い当期純損失を 354 百万円に修正しております。

※ 業績予想につきましては、本資料の作成日現在において入手可能な情報に基づいて算定しております。今後の経済状況等の変化により、実際の業績は異なる可能性があります。

以 上